

2020年12月23日

関係各位

会社名：三井物産株式会社
代表者名：代表取締役社長 安永竜夫
(コード番号：8031)
本社所在地：東京都千代田区大手町
一丁目2番1号

西豪州ウェイトシアガス田ステージ2開発の最終投資決断の実行

三井物産株式会社（本社：東京都千代田区、社長：安永竜夫、以下「三井物産」）は、AWE Pty Ltd（三井物産100%子会社、以下「AWE」）を通じて50%権益を保有しオペレーターを務める西豪州ウェイトシアガス田（以下「ウェイトシア」、並びに「ウェイトシアJV」）の本格的商業開発であるステージ2開発につき、事業パートナーのBeach Energy Limitedと共に、必要な政府許認可取得を前提とした最終投資決断を行いました。

当社は2018年に、西豪州パースの北約350kmの陸上に位置するウェイトシアの権益を保有するAWEを買収しました。同買収は、ウェイトシアガス田をはじめとした豪州国内の優良原油・ガス資産のポートフォリオを拡充すること、及び豪州石油・ガス生産事業に於いてより活動領域を広めるためオペレーター機能を獲得することを目的としていました。

ウェイトシアは、豪州最大級の陸上天然ガス田です。AWE買収後に埋蔵量を積み増した上、当社が参画するノースウェストセルフジョイント・ベンチャー（以下「NWSJV」）¹の天然ガス液化設備を通じてLNG市場へのアクセスを確保したことから、商業化推進の判断に至ったものです。²

本プロジェクトは、今後も世界で需要の増加が見込まれるLNGの安定供給に貢献するとともに、西豪州の製造業や消費者向けに国内ガスの供給を継続することを予定しています。また、中期的にガスへの燃料転換を促進し、低炭素社会の実現に貢献する取り組みになります。

¹ 当社50%出資の持分法適用会社Japan Australia LNG (MIMI) Pty LtdはNWSJV権益の16.67%を保有します。

² 今般、ウェイトシアJVはNWSJVとの間でガス処理契約を締結し、ガスを液化し輸出するために必要となる設備の利用権を確保しています。尚、同契約に際し、当社はNWSJVに対して保証を差し入れています。

今般実行するウェイトシアのステージ2 開発では、既存の日量 20 テラジュールの生産能力に加えて、日量 250 テラジュールの生産能力を新設予定です。具体的には、追加生産井の掘削と新規ガス処理施設の建設を予定しており、総投資額はプロジェクト 100%ベースで 7.68 億豪ドル(約 593 億円)、当社持分約 3.84 億豪ドル(約 297 億円)を予定しています。生産開始時期は 2023 年後半の予定です。

ウェイトシアの開発を通じ、当社はエネルギー事業全般におけるオペレーターとしての機能を強化します。また、本プロジェクトは、当社の総合力を活用し、ガスサプライチェーン全体の価値創造をリードするものです。今後も、当社が蓄積してきた知見やノウハウを活用し、ガスバリューチェーンやカーボンマネジメントの分野においてさらなる事業機会を追求します。

なお、本件による 2021 年 3 月期連結業績への影響は軽微です。

【ウェイトシアガス田権益保有者】

AWE Pty Ltd (オペレーター)	50%
Beach Energy Limited	50%

本件に関する問合せ先: 三井物産(株)

IR 部 TEL: 03-3285-7657

広報部 TEL: 080-5912-0321

ご注意:

本発表資料には、将来に関する記述が含まれています。こうした記述は、現時点で当社が入手している情報を踏まえた仮定、予期及び見解に基づくものであり、既知及び未知のリスクや不確実性及びその他の要素を内包するものです。かかるリスク、不確実性及びその他の要素によって、当社の実際の業績、財政状況またはキャッシュ・フローが、こうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。こうしたリスク、不確実性その他の要素には、当社の最新の有価証券報告書、四半期報告書等の記載も含まれ、当社は、将来に関する記述のアップデートや修正を公表する義務を一切負うものではありません。また、本発表資料は、上記事実の発表を目的として作成されたものであり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。